



晴海台小学校の合言葉 「大好き! 晴海台! ~ ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさに貢献する子ども ~」



学校だより



晴海の丘

〇しっかり取り組もう 勉強
〇きっちり守ろう きまり
〇もっと使おう ふれ愛ことば



←HPを登録
してください。

令和5年3月20日号

文責 上久木田雄二



教育崩壊の危機

教員不足は、全国的に深刻になっています。長崎も例外ではなく、この4月をどのような形で迎えることができるのか正直不安です。

子どもの人口が減り続けているのに、なぜ教員不足になるのでしょうか。

教員不足には、いくつかの側面があります。

一つ目は、臨時的任用教員と呼ばれる非正規の職員の登録者が減っていることです。

4月を通常の形で始めることができて、年度途中で想定される休暇・休業の代替者がいないのです。病気休暇や育児休業の職員がいても、代わりとなる担任がいないということです。

臨時的任用教員に登録しても手当てがあるわけではないのです。生活に窮するわけにいけないので、登録者が敬遠するのは当然です。

二つ目は、特別支援学級の増加です。教育の原点とも言われる特別支援学級は、一クラスの定員が8名です。35人いれば5名の担任が必要になるわけです。通常学級は35人で一人の担任です。単純計算で5倍の人員が必要になるのです。

三つ目は、教員採用試験の受験者の減少と採用数の増加です。

教員採用試験の受験者は、教員免許取得者のおよそ6割と言われます。4割の人材は、教育系企業等に就職するのです。

一般企業の待遇と比べられ、ブラックのレッテルを貼られたら、教員採用試験の受験者の増加

を見込むことは大変難しくなるというわけです。

大量定年退職者を補完する新規採用者を確保するにも受験者数が頭打ちでは、手の打ちようがありません。

ある県では、すでに採用予定者数を受験者数が下回る事態が実際に起こっています。

文部科学省もこの窮地を現場と共有しつつ次のような通知がありました。

〇勤務時間管理の徹底(年間ベースで、月平均30時間以内の在校時間にしよう求められています。)

〇行事及びその内容を絞るなど重点化するとともに、精選し、効果的・効率的に目標を達成するよう実施すること。

〇学校行事の精選や内容の見直し、簡素化を進めることが期待される。

留守番電話対応・給食着の個人購入・行事の縮減や縮小・通知表の見直し・集金業務の見直し等の改革は、来年度以降も継続します。

教員の勤務時間は、8時15分から16時45分です。在校時間を月平均30時間以内にするためには、職員が朝7時30分に出勤し、17時30分に退勤する必要があります。それでも月22時間のサービス残業が発生します。

国レベルで教育環境の整備・改善に取り組む中、魅力ある働きやすい職場としての学校を目指し、公教育が維持・発展できるように、保護者や地域の皆様の理解と協力をお願いします。

